

海底ケーブル用複式等化方式

先進諸国では、それまで等化回路の調整作業を敷設中の船上で行っていたが、長距離敷設の場合は作業回数が多いために非効率であった。そこで、ケーブル中継器特性の不一致から生ずる伝送特性上の誤差の特質とその伝送品質に与える影響を解析し、1968年（昭和43）に複式等化方式と呼ばれる新方式を考案した。この方式は、敷設船上での等化回路の調整回数を少なくするとともに、かつ周波数特性が良く、広帯域長距離中継方式に適した海洋等化方式であることが確認され、CS-5M、CS-12M方式などに適用された。

出典：KDD 社史